

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390101743		
法人名	有限会社 敬愛		
事業所名	グループホーム心の瞳		
所在地	岡山県岡山市中区海吉1465-1		
自己評価作成日	平成29年3月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyu_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3390101743-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成29年3月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

津山市を拠点に複数の事業所を運営している当法人が、岡山市に初めて設立したのがグループホーム心の瞳であり、オープンから3年目を迎えた。当法人は津山市にて14年間立ち止まる事なく日々「真」のグループホームのあり方を研鑽している。グループホーム心の瞳も同法人内事業所として高い志を持っており、当法人が追求する「真」のグループホームのあり方に少しでも近づけるよう日々奮闘している。それぞれの感性を信じ、挑戦することに臆せず、常に利用者様を第一に考えている。自分達の事業所が誇れる様になる為には柔軟でたおやかな心の考え方を職員全員が持ち合わせる事に重点を置いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設3年目に入った「心の瞳」に訪問して昨年より雰囲気随分落ち着いてきたと感じた。昨今、どのホームも抱えている介護職員の不足問題はこのホームでも例外ではなく、派遣社員を雇用していたが、やっと職員のみで業務の体制が整ってきたようだ。ここでは管理者の上に主任を置いており、代表が「感性のある人、資質のある人」に主任になってもらっていると信頼を寄せる職員がA・Bユニットのそれぞれの主任に就任している。職員体制は整ったが人材の育成はこれからの課題であり、「仕事が楽しいと思えるように、何にでも関心を持ち、人に興味を持って、利用者と一緒に楽しんで欲しい。そういう職員を作り上げていきたい」と社長の熱い想いを聞かせてもらった。利用者は男性女性ともまだまだ元気な人が多く、昼食は利用者全員で役割分担をして一緒に作る事も多く、リビングもとても活気があり賑やかで笑顔が溢れている。地域との交流も徐々に拡がりつつあり今後がとても楽しみなホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の基本理念「3つの心」を朝の申し送り後に出して読み上げている。加えて3つの指針と職員宣言(毎日1つずつ)を唱和している。管理者及び職員はこの事業所の理念を大切に思っている。	基本理念と指針は額に入れ、職員の目につきやすい所に掲示してある。柔軟でたおやかな心の考え方を職員全員が持ち合わせる事に重点を置いているが、開設3年目を迎えた現在、職員に理念が浸透しきれていないのが現状である。	「柔軟でたおやかな心の考え方を持つ」というのは抽象的な言葉だが、職員が温厚・柔和な気持ちで利用者と向き合い、日々のケアに理念の「3つの心」を活かしてくれることを期待している。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお茶のみ会(月1回)への参加はほぼ定着しており、近くの中学校や児童養護施設との交流も図っている。日常的には散歩での挨拶、地域の人が差し入れや、ホームで行う行事へ参加することもある。夏の盆踊り大会では、他の高齢者施設と共に招待され、ほとんどの利用者が参加した。	町内会からのお誘いもあり、お茶飲み会や健康体操に不定期ではあるが数名が参加して交流しており、町内会行事にも積極的に参加している。中学校の文化祭の見学、地域のボランティアの訪問もあり、交流の幅が徐々に広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、ホームの行事で地域の方々に認知症について話す機会を設けている。中学生の職場体験の受け入れをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、ホームの活動報告やボランティア、研修、勉強会、地域活動の様子を報告している。毎回手作りのお菓子を用意し、意見交換を行っている。この会議から地域の情報を得られることが多い。	着実に運営推進会議が開催されており、回を重ねる毎に内容も充実してきている。回覧板に入れて、ホームの活動を情報発信してはどうかという町内会長からの提案もある。行政・地域住民の他に利用者・家族も参加して有意義な意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年は実地指導がなかったが、市の集団指導に参加することにより介護サービスの適切な運用に努めている。運営推進会議には地域包括の職員の参加があり、情報交換をしている。	市主催の看取りの研修会に参加する等、積極的に外部の研修にも出かけている。地域包括の職員とは会議に参加してもらったおりに、定期的に情報交換したり些細な事でも相談して助言や指導をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は建物内の鍵は開錠し、センサー等の設置もしていない。B棟の出入り口にインテリアに馴染む鈴を取り付けているものの(A棟はつけていない)、その音を頼りにせず、職員同士で各利用者の動きを把握し、敏感になるようにしている。夜間は施錠するが、門扉や玄関、出入り口は簡単に開くので、外に出たい欲求の強い人に注意している。	いつも荷物をまとめて帰る準備をしている人は、周辺を車で走っているうちに落ちて着ることが多いそう。外出願望が強い人は一度自宅近くまで歩いて帰っていた事もあり、日々職員同士で声をかけ合い確認しあっている。身体拘束・言葉による制がないように職員間で話し合っている。	利用者が何を考えているのか。行動の原因は何なのか。例えばAさんの場合は精神状態を見て記録する。困った行動を阻止する対策を検討する等、一つの事例を作ってそれに対して職員が話し合う事も必要であり、支援や対応をプランに入れてみて欲しい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士でお互いの言動に注意し、少しでも虐待に繋がるような言動が感じられたら、上司に報告している。スピーチロックについては徹底されていないように思われる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだ出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には利用者や家族が1名ずつ出席し、意見を聴取している。面会に来る家族も多く、その都度話を伺うようにしている。	10月にはホームを開設して初めての家族会を開いた。全家族の参加があり、利用者と一緒に背中流しゲーム等を楽しんだ。家族会に参加してすごく良かった来年も参加したいという声もいただいた。担当者から毎月手紙や写真を家族へ送付し、面会時には意見や要望を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体ミーティングでも各職員から忌憚のない意見が出されている。普段からも意見や提案を出しやすい職場の雰囲気を作るよう心掛けている。発想力豊かな職員により趣向を凝らした行事が企画されている。	毎月の全体会議で意見交換をして業務改善につなげたり、申し送りノートで情報の共有をしている。「言葉かけの中でこの〇〇が良かったと皆で共有し記録する」という記述もあった。今後は各ユニットでフロアミーティングをやりたいと思っている。職員の入れ替わりはあるが、夜勤専従の職員が4名いるのも嬉しい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は津山市から岡山市へ移住し就業環境の整備を行う事に専念している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理職は月に1回程度津山に赴き教育部長から管理職としての心得を指導されている。各職員もそれぞれの経験やレベルに応じた外部研修に参加し、全体ミーティングでの研修報告や伝達研修という形で他の職員に対しても学んだ知識を伝えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者が多数参加する研修に行き情報交換、意見交換をして資質の向上を目指しているが、実行には及んでいない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	これまでの生活環境に少しでも近づける様日々困っている事不安に思っている事を聞き、安心して頂ける様努めている。新しい入居者には「ご縁を大切に」と書いたカードと5円玉、入居記念写真を贈り、居室の暖簾を選んでもらうようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にも家族の思いをしっかりと聞き取れる様、日々何かあれば連絡を取りながら信頼して頂ける様関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族がその時必要としている支援が見極められる様に頑張っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はして頂き、出来ない所をサポートして出来る様に支援する様に心がける事が当事業所のあり方である。さりげない声かけに努め、無理強いにならないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切に出来訪時の時間はゆっくり出来る様配慮し、来訪出来ない時も状態が分かる様毎月手紙と写真を送っている。暑中見舞いと年賀状は本人が作成したものを発送した。2か月に1度手作りの新聞を発送し、ホームでの暮らしの様子も伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親族が面会に来られた際にはゆっくりと話が出来る様配慮している。買物先で知り合いに出会うこともある。	家族の面会も多く、毎日のようにホームに来て一緒に過ごし妻の食事介助をしている人もいる。入所前からの馴染みの関係、入所後の馴染みの関係もある。利用者から家族への年賀状作りをして家族との絆が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	隣席の利用者同士がお喋りを楽しんだり、お互いを労わっている様子がよく見られる。席も固定せず、いろいろな利用者と交流できるように配慮している。行事以外でも両棟の入居者の行き来があり、毎日のように他棟を訪れる利用者もいる。関わりが難しい利用者には職員が間に入り孤立しない様にし、入居者同士のもめごとにも早く気づき対応する様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族からの相談があれば、相談や支援をしようと思っている。思い出のアルバムを贈ったり、ホームでの行事にお誘いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を把握に努め、気が付けば職員同士で話題になっていることがある。特にプラン見直しの時はしっかりと意見を出し合っている。	日々の関わりや雑談の中で聞き取った事や気づいた事は職員間で話題にし情報の共有をできるようにしている。生活歴はもとより、家族からも情報を得たり、本人とじっくり対話して思いや意向を汲み取る努力をしている。	職員間で話し合い情報の共有をする事は良い事だが、話し合うだけでなく、気づいた事は記録に残すのも必要であり、利用者の身体面・心理面の変化や意向を把握してプランにも反映して欲しい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取り、入居前のケアマネジャー、看護添書等から情報を得て、職員全体で共有して行く様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定、その日の行動、顔の表情等、日々現状の把握に努めている。様子がおかしい時には訪看・医師に連絡し指示をもらっている。できるようになったこと、できなくなったことについて職員同士で情報交換している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・必要な関係者と話し合い、意見を聞き、現状に即した介護計画が作成出来る様努力しているが、職員個々の考え方もあり、グループホームの役割、あり方がチームケアとして浸透せず、統一性が図れないこともある。	アセスメントやモニタリングをして課題の抽出をし、職員間で話し合っケアプランを作成しているが、日々のケア記録をプランに反映できるように「記録のしかた」を見直してみるのもよいかもしれない。状態の変化があれば、随時、カンファレンスをしてプランを検討している。	ケア記録の内容が両ユニットで少し差があると思うので、職員間で「記録のしかた」等についてよく話し合い、利用者の発言・会話・状態の変化・エピソード・気づき等を具体的に記入して、個人記録を充実させて欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は健康チェックシート・経過記録でまとめて見ることが出来る様にしている。日々の気づき等も申し送りノート等を利用し職員全員で共有し実践や介護計画の見直しに活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況が変わればニーズも変わってくる。その時々ニーズに沿った支援方法を家族と相談しながら考えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に1回のお茶のみ会への参加、年に数回行われる中学校のギャラリー鑑賞、中学校の運動会や文化祭の見学、その他できるだけ地域の催しに参加し、豊かな暮らしを送ることができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1ヶ月に2度の主治医の往診がある。他科の受診が必要な場合には家族や職員が同行している。訪問歯科も利用している。	それぞれの従来のかかりつけ医を受診している。今日は訪問診療専門の医師の往診日であった。本人・家族の希望で週1回訪問マッサージを自費で受けている人もいる。他科受診は原則、家族に付き添いをお願いしているが、緊急時や困難な場合は職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、訪問看護師が来ている。様子、状態を伝え情報を共有した上でアドバイスをもらい、看護師の指示により医師へ繋げるようにしている。特変時電話連絡をし必要に応じて来て頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院の際には病院に情報提供を行う。入院中は面会に行き本人の状態を確認すると共に医師、看護師、相談員と共に早期退院に向けて話し合いをしようと思っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだホームでの看取りはないが、重度化、終末期についての方針は入居契約時に家族に説明をしている。その時が来たら本人・家族・医師等と話し合いを行い支援していこうと思っている。職員も看取りに関する研修に参加する等研鑽している。	重度化している人は少なく、医療が必要になった場合は入院となり、現在ターミナルに該当する人はいない。看取りをしていく方針は持っており、職員は看取りの外部研修にも参加している。本人・家族が希望すれば医療機関と連携を取りながら出来る限りの支援をしていく考えである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成している。感染対策についても委員会メンバーによるマニュアルの見直しが適宜行われている。昨年は消防署員を講師に招き救急講習を行ったが、今年には行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	11月に水害を想定した避難訓練を実施した。消防署員立ち合いのもと、1階の入居者が2階に避難するという内容で、問題点や改善点が明らかになった。3月には連絡網を使った通報訓練を行う予定である。地域の防災キャンプへの参加を誘われたが、今年には参加できなかった。	外の非常階段を使って2階から1階への避難訓練をした事もある。富山学区の防災マップがリビングに掲示しており、すぐ近くの富山中学校が災害時の指定避難場所になっている。ホーム近くでは中学校の用水路が危険なので、ホーム入り口は厳重に管理をという町内会長の意見もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり人格が違うので、その方に合った対応を心がけている。呼称制度を設け、本人や家族に確認し、一番呼ばれたい呼び方で呼ぶようにしている。一部の入居者ではあるが、家族から昔の写真をお借りしており、その人の人生そのものへの関わりを深めていきたいと考えている。	呼び方一覧表を作成し、本人の望む呼称で呼んでいる。男性利用者は部長・先生等と役職名で呼ばれるのを好む人が多い。共有スペースにあるトイレでの排泄介助時はドアを閉めたり、誇りを傷つけないような言葉かけに気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらからの押し付けにならず、本人の思いや希望を表し、自己決定出来るよう対応している。ドリンクタイムではメニュー表から飲みたい物を選んでもらうこともある。特に本人の誕生日を最も大切なものと位置づけ、本人のお好きなものを召し上がっていただくようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合ったペースは大事にしている。その時々によっても違うのでその時の様子、表情には気を付けて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の修理、ボタン付け等出来る方には自分でしてもらっている。その日に着たい洋服も選んで頂いている。行事によっては化粧をしたり、アクセサリーを身に着けたり、雰囲気盛り上げるようにしている。散髪は2ヶ月に1度利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員の個性を生かしたメニュー(フレンチ、カンボジア料理)を取り入れたりと、季節感(夏は流しそうめん、冬は鍋)や手作りにこだわっている。ほぼ毎日利用者が調理や配膳に関わっている。利用者同行で買物もしており、ホームに帰ってから食材を陳列し、形が変わった野菜や珍しい種類の野菜を見て会話が弾むこともある。	今日の昼食はホットプレートで焼き肉のユニットとハンバーグのユニット。下拵えから始めて自分の分は自分で焼くという具合に、利用者参加型でワイワイガヤガヤ楽しい食事の光景だった。特にBユニットでは全員が肉を完食した姿に驚いた。満足度が一気に増した食事だった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	塩分制限や糖尿病のある方、体重増加に注意している方等に配慮した食事を提供している。水分量もあまり飲めない方には回数を増やしたり、甘い水分に変えたりなどして対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけを行い手伝いを必要とされる方は手伝っている。居室の洗面を使用する方もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄のパターンを把握し対応をしている。その人に合ったパットやパンツの種類を検討し、日中と夜間で異なる対応をしている人もいる。	排泄チェック表で個々のリズムを把握し声かけ誘導をしているので、夜間は紙オムツでも日中は布パンツに薄いパットで全く失敗のない人もいる。職員の提案でホットタオルを常備し、失禁・失便時にはシャワー、ホットタオル等で清潔を保っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分が摂れていない方にはこまめに声かけ好みの飲み物等を提供するなどして工夫している。運動不足の方には廊下等歩いて頂いたりお腹マッサージをする様取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を月・水・金と入浴日としている。断る方は清拭・足浴で対応し、声かけやタイミングを工夫しながら、出来るだけ入浴して頂けるよう努力している。入浴を楽しんでもらうために入浴剤の使用したり、花風呂、しょうぶ湯、ゆず湯等のイベントを行うこともある。	週3日の入浴を基本としているが、浴室の入り口に木のベンチや椅子を置いて、衣服の着脱や休憩できるようにしてある。洗身・洗髪が自立の人もいれば自分で入浴日を決めてその日の気分に入る人もいる。入浴拒否のある人への言葉かけが職員間で統一出来るように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後は自分のお好きな時間に帰って休んでもらっている。日中も休みたい方には居室で休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は変わったらすぐにわかるように記録し職員全員が共有できるようにしている。与薬もれには注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴・家族の話などから好きな事を把握し少しでも楽しんで頂ける様支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添えないこともあるが散歩、買い物など好きな方には行ってもらっている。各棟での月1回の外出が定着しており、2台の車で乗り合わせて、外食や季節の花を楽しんでいる。春や秋の気候のよい季節は弁当を作って出かけることが多く、それも楽しみにしている。	花見や外食・ドライブ等の非日常的な外出も計画を立ててよく出かけている。ドライブ&ピクニックという企画で瀬戸大橋に行ったり、忘年会を利用者も一緒に食事処で催す等、様々な取り組みをしている。本人のニーズに合わせた外出の個別支援もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の同意を得て、いつも持ち歩く鞆の中に僅かな金銭を所持する入居者がいる。別の入居者は家族からこずかいとして貰った金銭(約2000円)を自己で管理し、少しずつ費消している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話が可能なところであれば、いつでも出来る様対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた装飾を施し、時には歌や音楽のCDを流し、皆が落ち着いて、楽しめるような雰囲気作りを心掛けている。習字の得意な方に行事の予定や歌詞を書いてもらって掲示している。天気の良い日は庭やベランダでお茶を飲むこともある。	お雛様が飾られ桃の節句の雰囲気にも含まれたりピンギには、テーブルやソファが寛ぎやすいように配置され、利用者が自分の好きな場所で思い思いに過ごしている。習字の得意な利用者が書いた歌の歌詞も壁に貼ってあった。天気の良い日は2Fのベランダでお茶会を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間のテーブルにつく時には気の合う人、合わない人を見極め本人の意見も聞きながら対応している。ソファに座るのが好きな人もいれば、テーブル席で隣席の人とおしゃべりに興じる人もいる。西側に設置しているソファも憩いの場となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ってきてくださるよう入居時にはお話をします。実際は持ってこられない方もいらっしゃるが出来る限り工夫をして居心地良く過ごせる様な工夫をしています。	もうすぐ100才になる人の居室には「〇〇家系図」と一緒に家族全員が写った大きな写真が飾ってあり、家族の愛情が感じられる。CDを聴きながら横になっている人、テレビで好きなスポーツを見ている人等、自分の時間を満喫しながら自室でゆったり過ごしている。新規入所がある都度、壁紙を一部新しくして模様替えをしていると聞いた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全には配慮している。トイレ・浴室などもわかりやすくはしている。できるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		